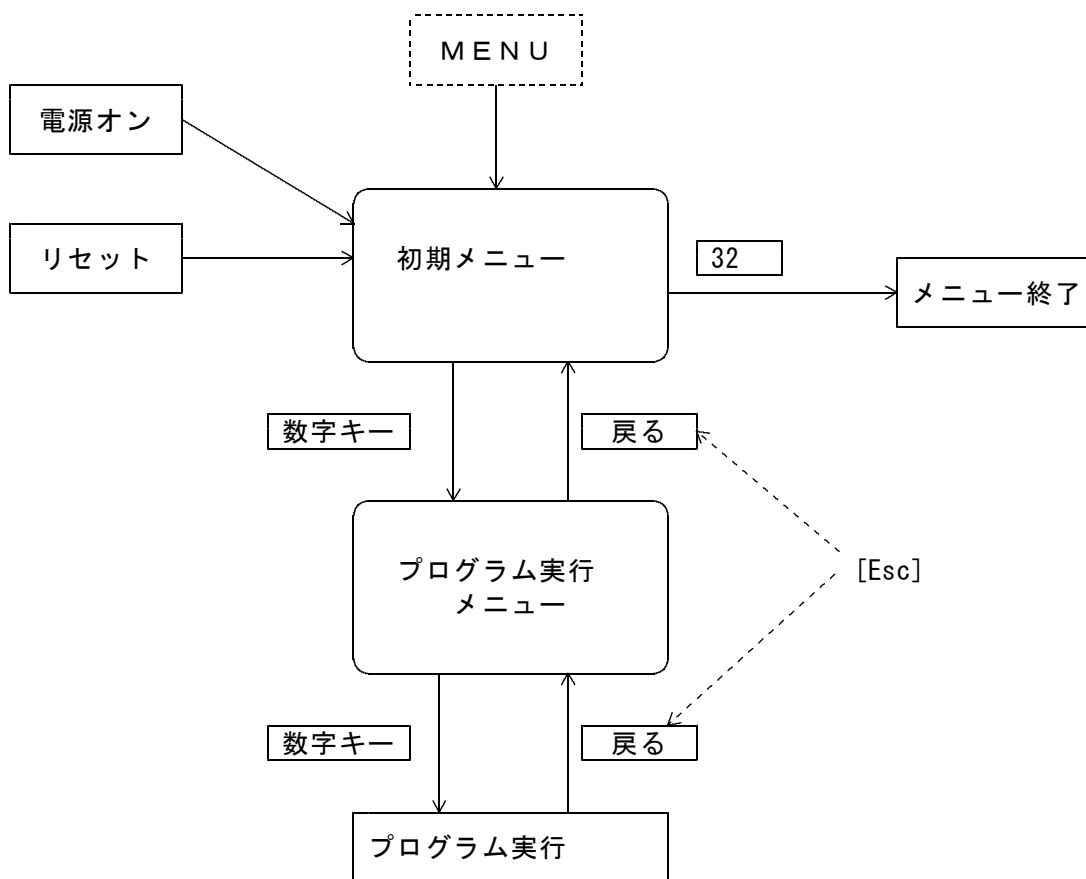
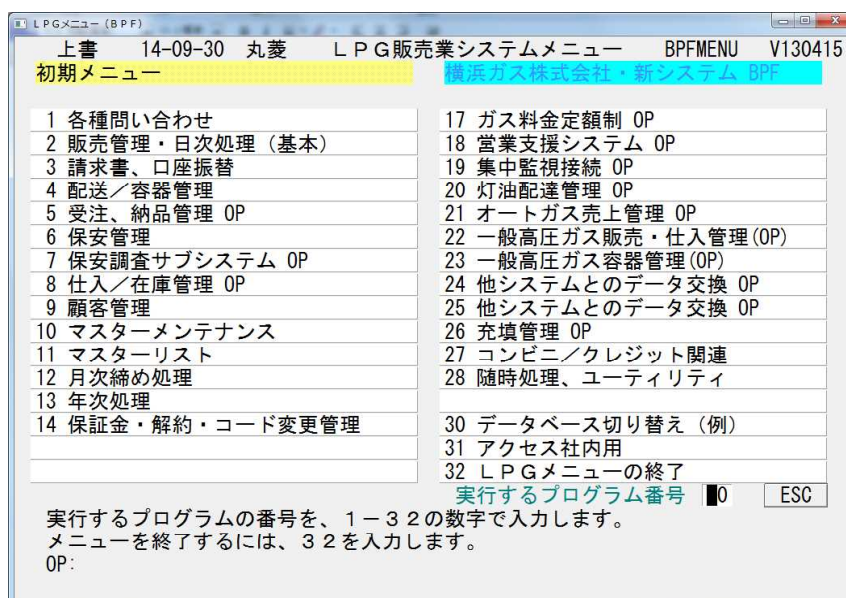


2. 業務プログラムの実行

2.1 メニューの操作



メニュー画面



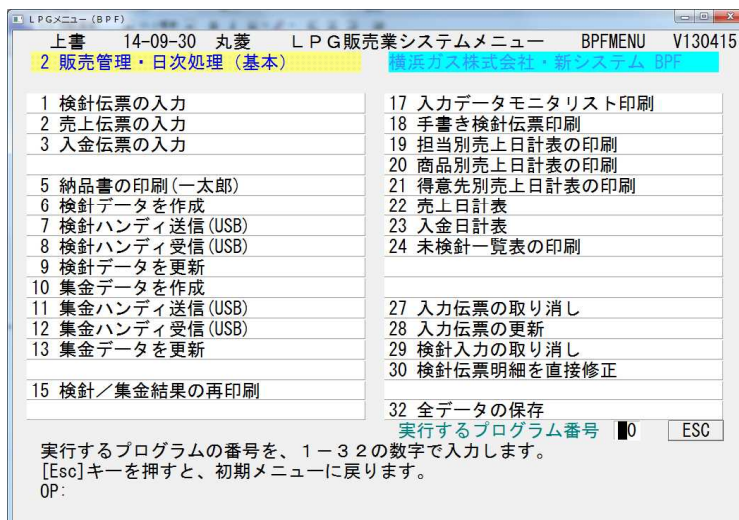
メニューは、「電源オン」、「リセット」、「LPGメニュー」アイコンを押したときには、常に初期メニューが表示されます。初期メニューから直接実行するプログラムはなく、下位のメニューに切り換えてから実行します。

メニューから何かを実行するには、1～32の数字で画面の項目を指定します。例えば、初期メニュー画面から、「販売管理・日次処理（基本）」を実行するには、

[2] 「Enter」

とします。この後下位画面になりますから、例えば、「売上傳票の入力」を実行したければ、

[2] 「Enter」



とします。

メニューを上位に戻すには、

[Esc]

とします。初期メニューで、32を入力するとメニューが終了しますから、注意して下さい。間違っても、メニューを終了してしまって、もう一度立ち上げたいときは、

「LPGメニュー」アイコンをダブルクリック

します。コンピュータを再起動しても、メニューは起動されます。

2.2 プログラムの実行/終了

表示されているメニューから、該当のプログラムを見つけ、メニューの番号を数字で、入力します。

メニューから起動後、キー入力が可能になるまで

準備中です。少しお待ち下さい。

という、メッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示されている間は、何も入力できませんから、メッセージが消えるまで、数秒待つて下さい。

処理プログラムが準備完了すると、そのプログラム固有の画面が表示されます。このとき、ファンクションキーは、すべてに共通で、次の意味を持っています。

F 1	: キー入力の訂正。項目を1つ戻す。
F 2	: コード順に次に移る。
F 3	: 検針順に次に移る。
F 4	: コードの逆順に移る。
F 5	: 名前による得意先の検索。
F 6	: 名前、住所の部分検索。
F 7	: 次画面の表示。
F 8	: 前画面の表示。
F 9	: 確認「イエス」
F 1 1	: 確認「ノー」
E s c	: プログラムを終了して、メニューに戻る。

実行するプログラムによっては、上記のように、画面の最下行にファンクションキーのガイダンスが表示されるものがあります。

[Esc] キーを押すと、プログラムはその時点でただちに終了します。従って、データの入力中に誤って押すと、そのデータは入力/更新されず、コンピュータの中では以前のままです。

2.3 プログラムの実行を中断

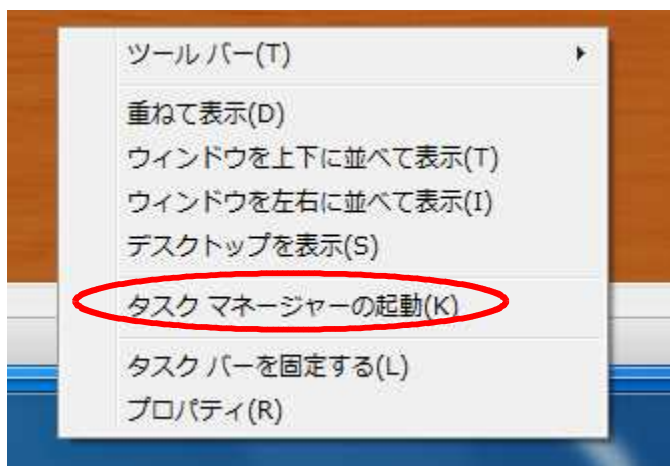
実行中のプログラムを強制的に中断する方法です。印刷中のプログラムや実行時間が長くて、途中で止めたいときに使用します。

Windows 7 の場合で記述しています。

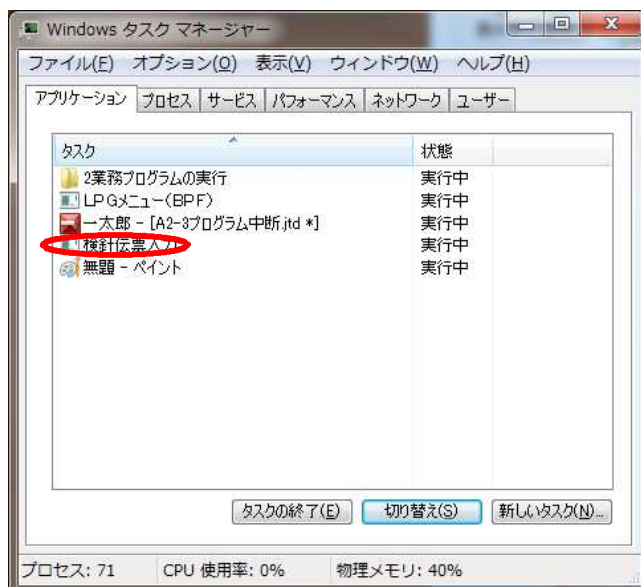
データの入力待ちの状態では、通常 [Esc] キーで正常に終了して下さい。
印刷中のプログラムは、ほとんどデータの更新を伴っていませんから、中断してもデータには影響はありませんが、印刷なしでデータ更新に長時間を要するプログラム（例えば、月末締め処理）もありますから、それを中断する場合は、サポート担当者に相談して下さい。

- (1) [Ctrl] と [Alt] を押しながら、[Delete] キーを押します。
「タスクマネージャー」を起動します。

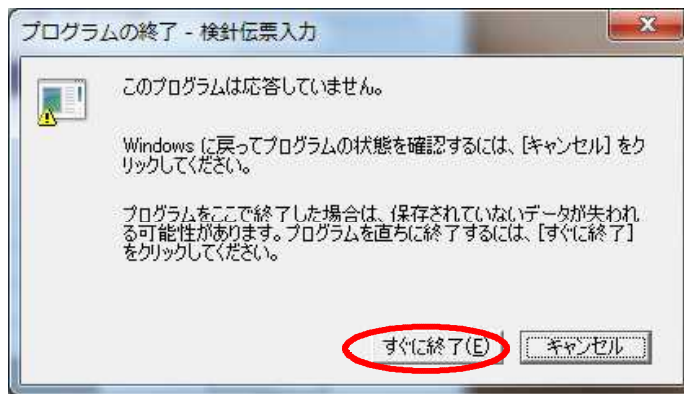
[タスクバー] を右クリックしても同様の画面が表示されます。



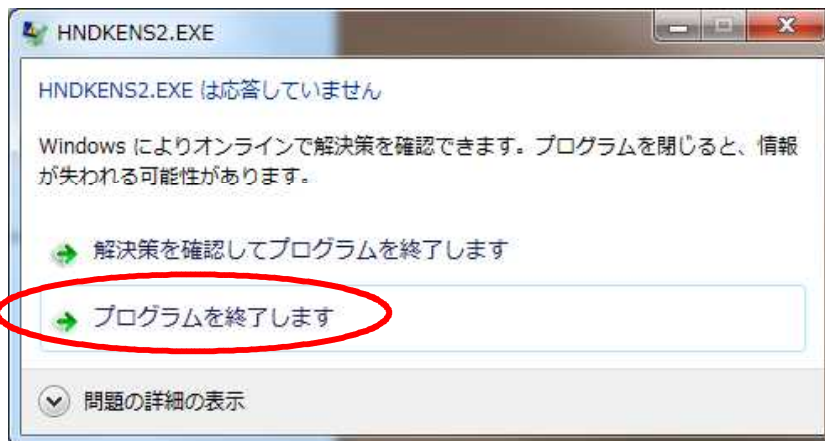
- (2) 「タスクマネージャー」の「アプリケーション」をクリックします。



- (3) 終了したい、プログラムをクリック（通常は、今実行しているものになっている）して [タスクの終了] をクリックします。



このような画面が表示されるので、[すぐに終了]をクリックします。
さらに、次のような画面が表示されたら、「プログラムを終了します」をクリックします。



数秒で、タスクマネージャの画面から、プログラムが消えます。

- (4) タスクマネージャを閉じて下さい。

2.4 印刷ジョブの削除

<プリントサーバを使用しているときの、印刷データ削除方法です>

すでに、サーバーに転送されてしまった印刷データを削除したいときがあります。

- ①紙がつまったので最初からやり直したい。
- ②まちがって、いらないものを、たくさん印刷してしまった。
- ③印刷するプリンタを間違えた。
- ④紙の位置があっていない。

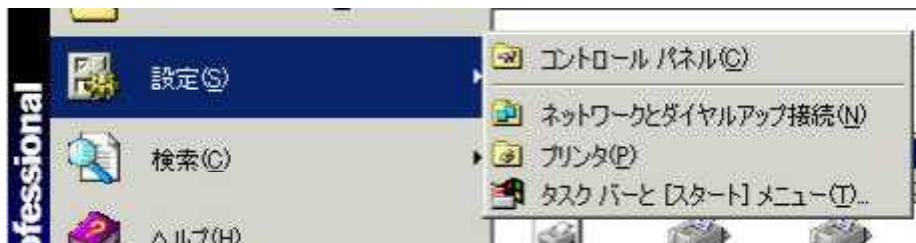
このようなときには、次の手順を行います。

- ①印刷を処理しているプログラムを終了させます。
(前項の「プログラム中断」で行います。)
すでにプログラムが終了していれば、この操作は不要です。

以下の操作は、プリンタの接続されているパソコンで行ってください。
LANケーブルで接続されているプリンタであるならば、自身のパソコンでも良いです。
他のパソコン経由で印刷しているときは、そのパソコンの画面で操作して下さい。

- ① [スタート] をクリックし、設定にカーソルを合わせます。
次のような画面が表示されるので、「プリンタ」をクリックします。

※「スタート」をクリックしたときに、すぐに「プリンタ」フォルダが見えるように設定されている場合もあります。



- ②プリンタフォルダが開かれます。



LBP-430は例です。
コンピュータの構成によって
名称は異なります。
通常プリンタの機種がわかる
ような名前を付けています。
(名前の変更は可能です)

- ③LBP-430を開きます。



④例えば、2番目の印刷待ちデータを削除したい場合



ドキュメント名を、クリックして、上例のように反転表示させます。
このまま、「Delete」キーを押すと、2番目は削除されます。

全部を削除したいときは、
プリンタ(P) --> 印刷ジョブのクリア(U)
の順にクリックします。

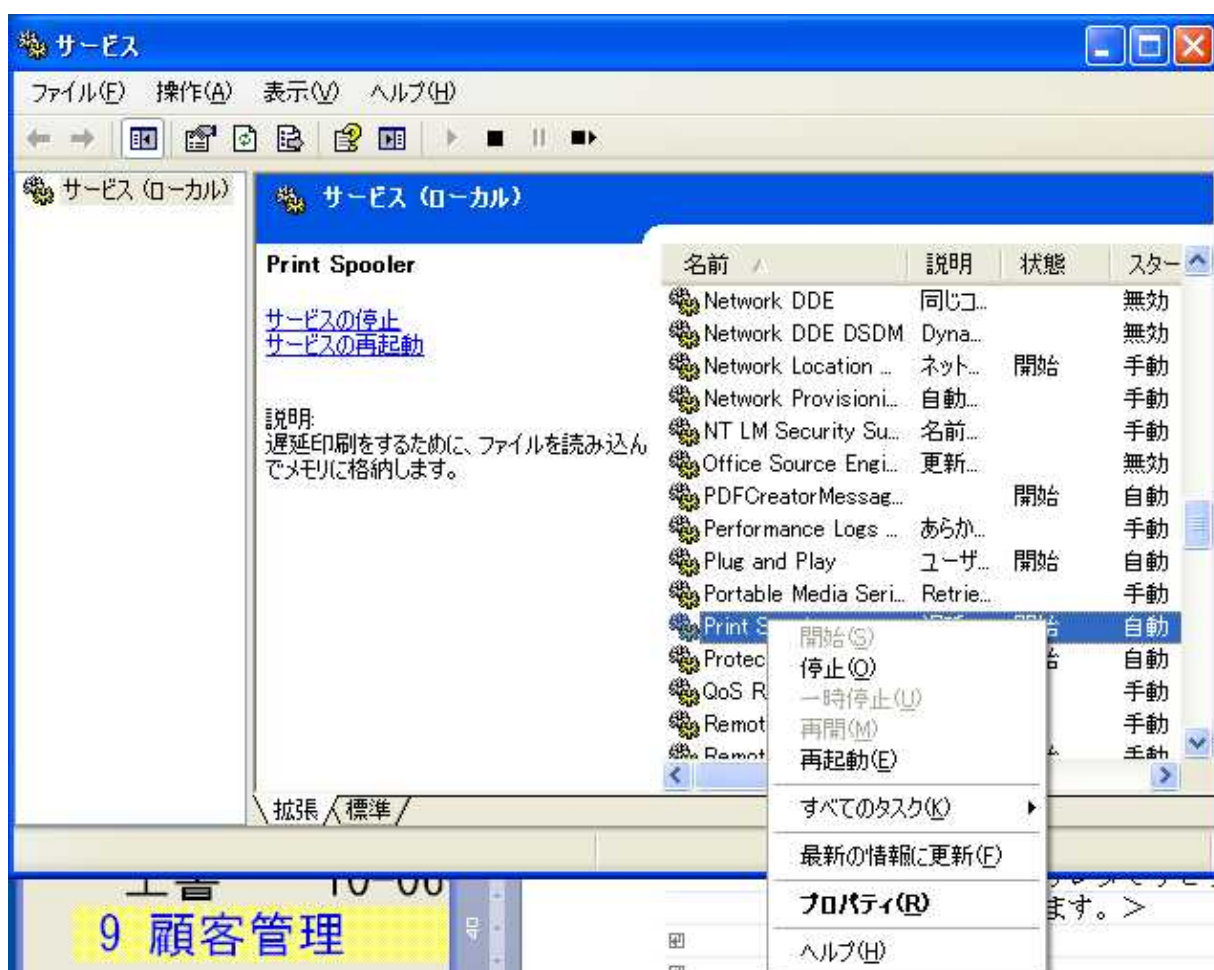
<削除しても、すでにプリンタに転送されたデータは、印刷されます。そのデータを削除したいときは、プリンタでリセットを行って下さい。リセットのしかたは、プリンタによって異なります。>

通常は、電源のオフ、オンで行います。

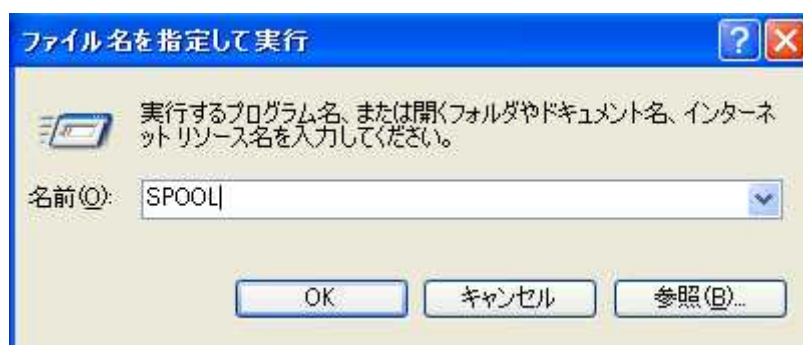
ここまで削除して再開（プリンタをオンライン）したときに、印刷が終了しない場合があります。それは、Windowsが、エラーを判断して、再試行をしているためです。その場合は、次の操作を行って下さい。

①「コントロールパネル」 --> 「管理ツール」 --> 「サービス」

Print Spooler を右クリックして「停止」する。



② 「スタート」 → 「ファイル名を指定して実行」 から、「SPOOL」を起動する。





- ③ PRINTERS を開いて内容を削除する。
下の絵のようになれば、OK。画面を閉じる。



- ④①の手順で「停止」したスプーラを「開始」する。

以上で、プリンタに溜まったデータは削除されました。

伝票類などは、先頭から再度印刷を行うと、用紙がもったいないです。
次に印刷プログラムを実行したときに、用紙の位置合わせ等を確認したら、「印刷開始得意先」を指定して下さい。このコードは、正常に印刷された最後のコードを指定します。

次の例は、「010101000」までは、正常に印刷されたので、そこから最後までを印刷するものです。（省略すると、先頭から再度印刷されます）

■ 検針請求書印刷	
上書	10-06-10 TS-GAS 検 針 請 求 書 印 刷 HNLKENPR V100517
営業所	<input type="checkbox"/> 終了
印刷開始得意先	<input type="text" value="0101010000"/> から <input type="text" value="9999999999"/> まで
	指定のないときは先頭からすべてを印刷します。 「から」を省略したときは、先頭から「まで」を印刷します。 「まで」を省略したときは、「から」から最後までを印刷します。
	中間ファイルから印刷データをプリンタに送ります。 中間ファイルの作成は検針請求書印刷(HNLKENSY)(HNLKENS2)で行います。
	印刷を中断したときは、中間ファイルが残っています。中断した途中から印刷 を続けたいときは、上記の 印刷開始得意先 に、得意先コードを入力します。 印刷が完了したときは、最後の「確認」メッセージで、Yesを応答します。
フォーム名	<input type="text"/>
印刷件数	<input type="text" value="108"/> <input type="text" value="C:¥LPG¥PRTWRK1006031140.KEN"/>
印刷先	<input type="text" value="SYSPRT"/>
	<input type="text"/>

2.5 データの保存

LPG販売管理のデータは、すべて、LPGDTというフォルダにあります。EXCEL連携や印刷イメージの一時データは、C:\¥LPGフォルダにあります。

通常は、LPGDT内のデータを、毎日および月次で保存して下さい。

保存先は、MOディスク、外部ディスク、CD、DVD、別PCなど任意に決めて下さい。手動で行う場合は、取り外しができる機器（例えばMOディスク）、自動で行う場合には、外部ディスク、別PCがよいでしょう。

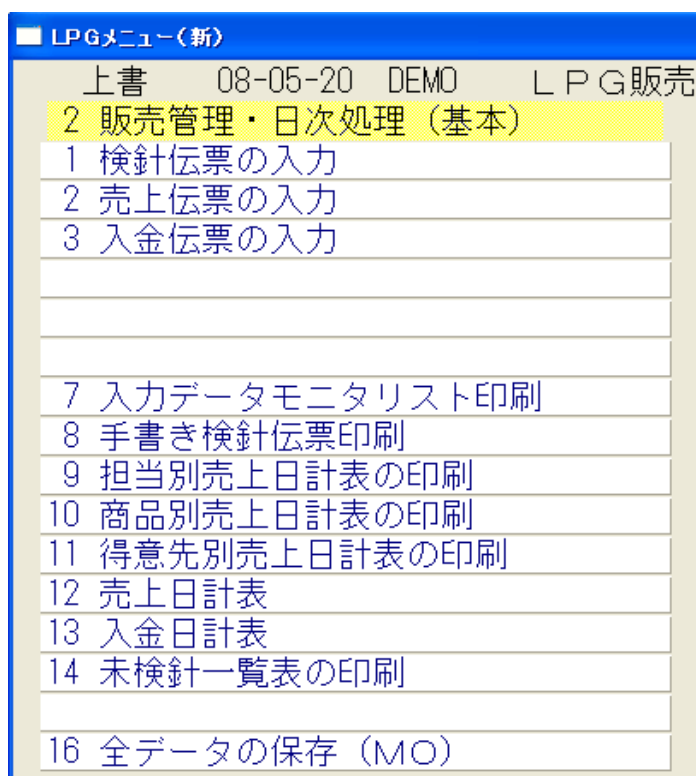
2.5.1 LPGデータベースの保存

(1) 手動で行う場合 1

次のようなコマンドを作り、メニューに登録します。例えば、MOディスクを使用するならば、月曜～土曜で毎日交換、月次で新ディスクのように運用するとよいです。

BACKUP. BATの内容 (Y:\¥LPGBATに作成)

```
COPY ¥¥ServserName¥LPGDATA¥LPGDT¥*.BTR E:
PAUSE
```



例えば、このように登録します。

メニューは、C:\¥LPG¥BPFMENU.TXT です。

(2) 手動で行う場合 2

日にち毎に保存する機能を用意しています。

メニューの、コマンドを、「C:\%LCLNAP%\BPFBAT\%BACK日次起動.BAT」にします。

(内容)

```
rem
rem   このバッチを、スケジューラから起動する
rem
C:\%LCLNAP%\BPFWIN\M$NITBA3.EXE C:\%LCLNAP%\BPFBAT\%BACK日次.BAT
```

BACK日次.BATを、任意に変更します。

(内容)

```
MD E:\%BACKUP%\LPGDATA\%DAY%1
XCOPY D:\%LPGDATA%\*. * E:\%BACKUP%\LPGDATA\%DAY%1 /S /F /E /H /R /Y /C /D /K
```

◎E：ドライブ上のBACK\LPGDATAフォルダ内に、DAY01～DAY31 のフォルダが作られデータが保存されます。

(3) 自動で行う場合

毎日、決めた時間に、2の手順を自動的に実行するように設定することができます。

(2) で作成した、C:\%LCLNAP%\BPFBAT\%BACK日次起動.BAT を、「タスクスケジューラ」で、任意の日付(=毎日)時刻で登録しておきます。

(4) 月次データの保存

月次の場合も、保存する内容は同じです。
しかし、毎日実行する必要はないので、プログラムを分けています。
使用するプログラムは、MSGETBAK.EXEです。

[手順]

MSGETBAK.INI を作成します。

MSGETBAK.INIの内容

```
[WINDOW]
MainWinPos=0,0
MessWinPos=0,0
MaxButton=yes
IconButton=yes
SysMenu=yes
OpenSize=Normal
WinSizeChange=on
WindowTitle=(無題)
MessageWindowTitle=(無題)
MainWinSize=102,29
[MSGETBAK]
%%ServerName%\LPGDATA,E:\%BACKUP%\月次
```

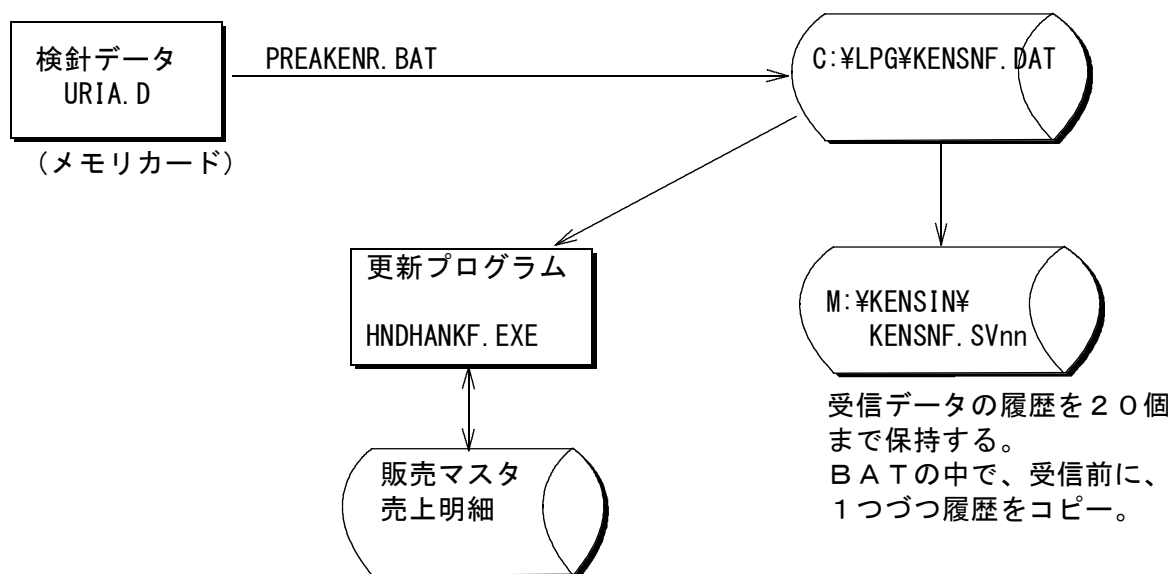
ここの部分は、
任意です

(複数行記述できます)

月次yymmというフォルダを作成してコピーします。yymmは、当年当月です。

2. 5. 2 ハンディなどの日次データ

(1) 検針データ (P r e a 検針)



[BATの内容]

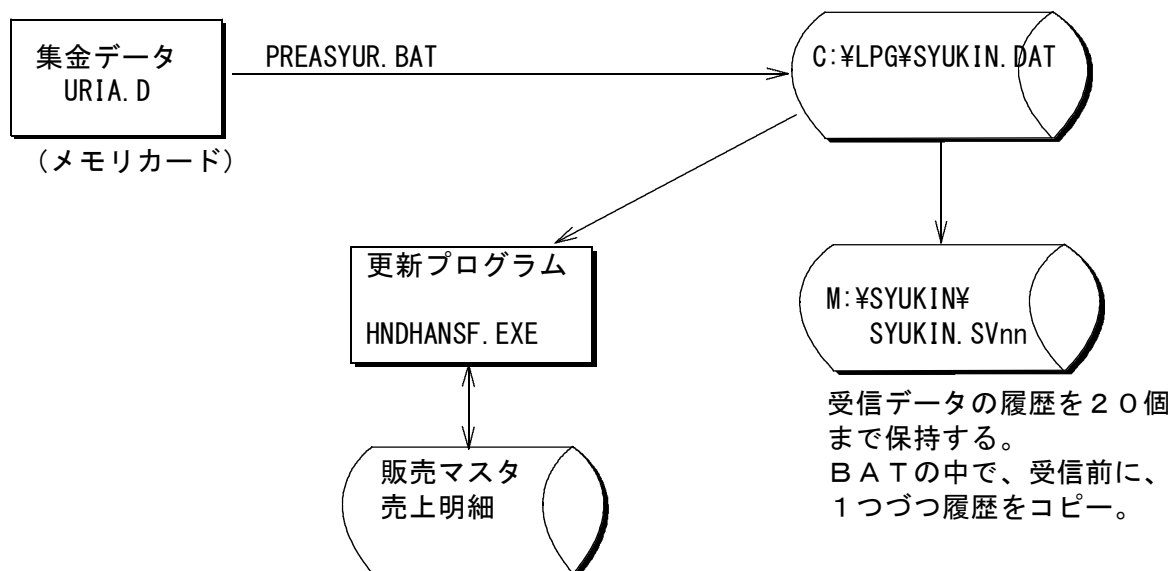
```

@ECHO OFF
REM   ☆☆☆ P r e a用検針データ受信   ☆☆☆
REM
ECHO.
ECHO  検針結果をメモ리카ードから入力します。
ECHO  メモ리카ードを挿入して下さい。
ECHO  メモ리카ードのドライブは、K: です。
ECHO.
PAUSE
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV19 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV20
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV18 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV19
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV17 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV18
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV16 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV17
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV15 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV16
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV14 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV15
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV13 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV14
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV12 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV13
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV11 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV12
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV10 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV11
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV09 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV10
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV08 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV09
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV07 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV08
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV06 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV07
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV05 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV06
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV04 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV05
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV03 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV04
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV02 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV03
COPY M:¥KENSIN¥KENSNF. SV01 M:¥KENSIN¥KENSNF. SV02
COPY K:¥UR1A. D C:¥LPG¥KENSNF. DAT
COPY C:¥LPG¥KENSNF. DAT M:¥KENSIN¥KENSNF. SV01
ECHO.
ECHO  5秒ほどお待ち下さい
ECHO.
PAUSE

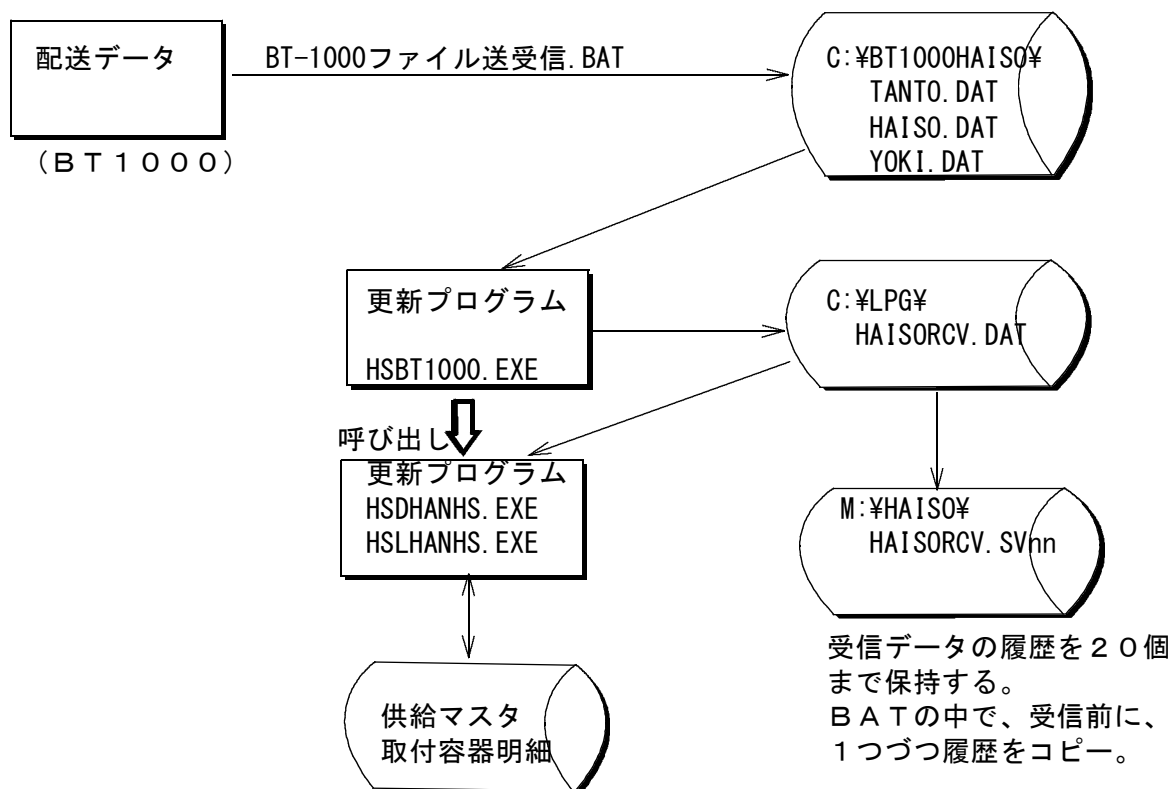
```

REM カード内でバックアップし、現ファイル名は削除
 COPY K:¥URIA.D K:¥URIA.SAV
 DEL K:¥URIA.D

(2) 集金データ (P r e a 集金)



(3) 配送データ (B T 1 0 0 0)



BT1000からの受信データは、3つに分かれているが、そのまま保存せず、更新形式に変更した、HAISORCV.DATを保存する。